

—地域共生社会の実現に向けて—

目黒区健康福祉部
部長 橋本 隆志



社会福祉法人もえぎの会の皆様には、五本木小学校「ゆりのき学級」の父母会の活動からスタートして以降、40年を超える長きにわたり、地域における障害福祉の発展にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

貴会では、「しいの実社」が行う就労継続支援B型、就労移行支援と生活介護、グループホーム「沙羅の家」とともに、区からの委託事業である「地域生活支援拠点」の運営など、障害のある方の重度化や高齢化、また親亡き後を見据えて、障害のある方が住み慣れた地域で安心して住み続けることができる支援体制の充実に取り組んでいただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。

さて、本区におきましては、来年3月に、新たな障害者計画の策定を予定しております。それに先立ち、昨年には、障害のある方の普段の生活の様子や将来の希望などについてお伺いするアンケート調査を実施いたしました。このアンケートの結果とともに、日頃お寄せいただいている様々なご意見などを踏まえて、障害のある方の地域生活を更により良いものにしていけるよう、新たな計画の内容をしっかりと検討してまいりたいと考えております。

目黒区の障害福祉の充実は、区行政だけではできません。貴会の皆様のように、地域の中で福祉活動に取り組んでいただいている方々のご協力が必要不可欠です。本区といたしましては、障害のある方を始め、様々な生活上の困難を抱える方々が、誰一人取り残されことなく、安心して住み続けられる地域共生社会の実現を目指して、福祉施策の充実に努めてまいりますので、より一層のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

ここ数年は、コロナ禍により地域の様々な活動が制限され、行事や事業の中止・延期・縮小を余儀なくされてきたことと思いますが、ようやく地域社会も活気を取り戻しつつあります。貴会におかれましては、これまで以上に積極的な事業活動を展開され、ますます発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

第22回 ウィズコロナのリモートしいの実祭 開催のお知らせ

11月25日(土)しいの実祭を開催します。地域の皆様と交流し、理解を深めていただくために開催を続けております。4年ぶりに今年は感染症対策も引き続き行いながら、館内も解放し、安心、安全なイベントを実施します。コロナ禍においてもしいの実社は前向きに取組みを継続し、進展した姿をお見せしたいと考えています。

しいの実社の利用者も、元気な姿で皆様とお会いできることを楽しみにしております。詳しい内容は同封の案内をご確認下さい。



第21回しいの実祭

4年ぶり宿泊研修旅行

支援スタッフ 岡安久美子

しいの実社では、今年4年ぶりとなる宿泊研修旅行に、茨城県の五浦海岸に行ってきました。利用者52名、スタッフ28名、ボランティア2名の合計82名の大所帯です。

1日目は9時にしいの実社を出発し、友部サービスエリアで休憩をしてから、那珂湊で昼食をいただきました。色々な種類の海鮮で、ボリュームもあり 皆さん満足な様子でした。お腹も満たされたあとは、大丸屋で干し芋の試食やお土産を見たり、アイスを食べたりとゆっくり過ごしました。

この日の宿泊先、五浦観光ホテルに到着してからは休む間もなく温泉入浴タイムとなり、お風呂から上がってくる皆さんの顔には心も体も温まった笑顔がありました。いよいよお待ちかねの大宴会。ま



歴史と趣のある五浦観光ホテルに到着



豪華な海鮮ランチ

ずはおいしい豪華な料理をお腹いっぱいにして満足し、恒例のカラオケ・タイム。今年初めて参加される利用者さんも多く、希望者全員が歌うために無駄なく進めなければなりません。そのため、事前に準備しておいたりクエスト曲を次々に歌って、踊って盛り上がりました。自分の番を今か今かと待つ人、待ちきれず舞台上と一緒に踊っている人とさまざまで、限られた時間でしたが普段とは一味違うとびきりの笑顔でした。カラオケが終わると満足気に皆さん部屋に戻っていきました。ホテルは本館が貸し切りとなっており、ゆっくり過ごす事がで

きました。

2日目は台風の影響で、雨となりましたが予定通り水戸ドライブインで昼食を取り、お土産を見た後は、バスに乗り「つくばハム工房」へ行きました。工房でハムやソーセージを作っている様子を見学して、ハムとソーセージ、チーズ、ヨーグルトの試食を楽しんでから、お土産を選んでいました。

久しぶりの旅行で利用者の皆さんには、お腹いっぱい、胸いっぱいの笑顔あふれた充実した旅行となりました。コロナ禍で、3年できなかったのも、初参加の利用者さん、スタッフも多



久しぶりに壮観な食事風景

い中で、関わりをより深め、新たな発見をした2日間となりました。

ご支援いただいている後援会の皆様に、参加者一同お礼申し上げます。



初日、天候に恵まれみんなゆっくり



お楽しみのカラオケ大会順番待ち

2023年もえぎの会事業報告会コンサート



楽しい時間 にっこり笑顔

7月15日(土)に、目黒本町社会教育館のレクリエーションホールにて、今年もMGK(ムジーク・ガルテン・クロキ)の黒木先生にご協力を頂き、もえぎの会の利用者を対象とした演奏会を開催しました。

利用者は、夏の暑い時期でしたが、しいの実社で自分たちが選んだぴえー留さんのお弁当を食べ、お腹も満たされた後に徒歩で移動



舞台に立ちやいました！



生ピアノの演奏にうっとり

し、ピアノの生演奏を楽しみました。

この演奏会は、元はもえぎの会の事業報告会で利用者向けのお楽しみ企画として行っていたものを、コロナ禍で報告会の開催が難しかった2020年から開催し、今年で3回目となりました。

しいの実社の土曜開所と少し違い、普段は一般就労や区内のしいの実社以外の通所施設を利用している沙羅の家庭利用者も参加するこの企画は、いつもと少しだけ顔ぶれも違います。ボランティアの協力もあり、演奏会を楽しむことができました。

曲目は、様々な年代の人がいるということを加味して、先生が流行の曲から懐かしの曲まで選曲して下さい、時には先生と一緒に舞台上に上がって体を動かして、踊って、歌ってと最初から最後まで充実した楽しい会となりました。

学芸大学店利用者実習

学芸大学店チーフ 鈴木洋子



洗い物と拭き上げ作業

学芸大学店で利用者が働くことになり、昨年の春から2名ずつ開店前にスマイルプラザから歩いて移動して、実習を開始しました。実習作業は主に2つです。

1つ目は陳列しているパンを袋に入れ、テープで止めること。2つ目はお客様の使用済みトンゴとトレーを洗い拭きあげることです。

これらの仕事に加え一人一人の得意不得意を考慮し、職員と試行錯誤の上、今では職員と一

緒にカウンターでの接客、商品の賞味期限と在庫数のチェック、在庫数のPC入力、窓や棚、床の水拭きや掃除機かけなど色々な仕事をそれぞれの利用者が担当しています。

また、お店にしていると自分が作ったパンが売れるところが直接見られるのもとても嬉しそうです。得意な仕事が好きに繋がり、積極性と責任感も出てきています。その姿はお客様にも温かく支えられています。今後も健康と衛生に留意しながら、新しい作業にもチャレンジしていきたいと思います。



パンの袋詰作業



後援会

会員インタビュー

萌木



株式会社キョーワハーツ
微細・精密プレス、板バネ加工 試作から量産まで

横浜市港北区高田西1-5-1
TEL 045-593-6116
www.kyowa-hearts.com

先代が中目黒で創業し、現在は横浜市高田に本社を置く、創業73年目を迎えるキョーワハーツの坂本悟社長をお訪ねしました。平均年齢38歳という若い世代の社員が多く活気があふれ、「ものづくり」に心をこめる金属加工会社です。リーマンショックとiPhoneの登場とともに経営が厳しい時期も経験されましたが、この窮地をチャンスに変えるべく、そこから自社製品開発を目指されました。社員を積極的に研修に送り出し将来に向けた模索をする中、偶然の出会いで生まれたのが「ヌーケ」でした。ある方が発案したものを、技術を生かしてキョーワハーツが製品化した、使い手への



坂本悟社長・坂本留実取締役

思いやりの溢れた便利なファイルです。売り上げの多くを占めるわけではありませんが、自分たちで商品を開発することで考える過程がとても重要で、他の仕事においても、お客様への新しい商品や方法を提案する力にもつながっています。自社製品を持っている金属加工会社は珍しく、就職活動中の学生には、開発に携わるチャンスがあるという魅力も感じられるようです。

3代目の留実取締役が5年前に加わり、「100年企業」を掲げ発展を続け、これまでに培った技術に磨きを続け、国内外の展示会への出店を積極的に行い、日本ならではのものづくりをと技術を発信しています。「できる方法を考える」「人を大切に」これらを実践している坂本社長からたくさんの貴重なお話をお伺いすることができました。今後のご発展をお祈りすると共に引き続き、よろしくお願い申し上げます。



綴じた書類をどこからでも自由に抜き差しで



社会福祉法人
徳心会

こぶしえん

沙羅の家清水のお隣さんでもあるこぶしえんの、三木健志園長にお話を伺いました。運営法人である徳心会は、現理事長の父・関根得太郎氏が設立。青梅市を中心に発展され、2018年に目黒四中跡地にこぶしえんが開設されました。そのコンセプトは、地域に開かれた施設ということで、プロムナード(施設内の通路の名称)は地域のかたが誰でも通ることができ、その中にあるレストランで食事をとることもできます。ガラス張りの素敵な建物の中をのぞくと、休憩スペースで地域のかたがくつろいでいる姿をよくおみかけします。

目黒区下目黒6-18-2
TEL 03-5722-5550
<https://tokushinkai.jp/>

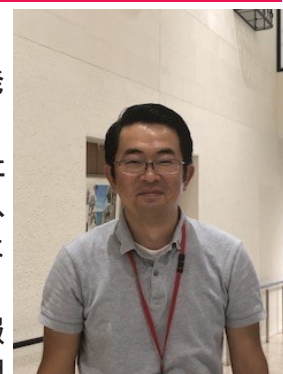


また、高齢者施設と障害者施設が一体となり運営されているため、制度の最新情報などを障害分野より先に進んでいる高齢者施設の生活相談員から聞くことができ、施設内で人事交流がしやすいことなどが強みです。

8月20日に行われた納涼祭は、来場者は1000人を超え、想定を大きく上回り、当日かなり運営は慌ただしかったそうです。

小さなお子さんを連れたかたも多く、それだけ地域に受け入れられているということなのでしょう。

三木園長から障害福祉の最前線で働いてきた経験や立ち上げから作り上げてきた地域に受け入れられること、巻き込むことを大切にしたいこぶしえんのコンセプトを伺う中で、改めて地域共生社会の大切さを再確認し、今後も切磋琢磨しながらお互いの地域での存在価値を高めていきたいと感じるインタビューでした。



三木健志園長



Reefer® System Japan INC.

リファースystemジャパン株式会社

目黒区碑文谷に本社を置くリファースystemジャパン株式会社は、平成7年に東西運輸のグループ会社として創業されました。

設立の経緯は、村田浩司専務がそれまで日本で飲んでいたものと全く違う、フランスで飲んだ「水より安い」ワインの美味しさに驚かれたことでした。そこで温度管理の重要性に気づき、品質が保たれる「15度」に徹底してこだわるワイン専門の定温配送事業を始められました。

定温管理され海上輸送されたワインを、リファース便で品質が保たれたままお客様へ届けられます。「好きになって興味をもつと自然と覚えるんです」という荻原茂営業部長の言葉が印象的で、進化し変化している国内外のワイン事情についても教えていただきました。

ワインのコルク再利用事業にも長く取り組み、お客様であるインポーター、ホテル、レストランなどから集められた使用済のコルクを、障害者施設で洗浄・仕分けし、新たな製品に生まれ変わらせるという活動を続けておられます。SDGsが声高になっている現在では、お客様からも製品を扱わせてほしいという声が増えており、その活動を継続されてきたことにより、次々と広がりも生まれています。



使用済コルクを利用した
カレンダーと時計



同社は、後援会発足当初から今までずっと私たちもえぎの会を応援し続けてくださり、社員の皆さんも仕事とワインに情熱をもち、地域にも温かな眼差しを向けてくださる素敵な会社です。これからも、よろしくお願いいたします。

同社は、後援会発足当初から今までずっと私たちもえぎの会を応援し続けてくださり、社員の皆さんも仕事とワインに情熱をもち、地域にも温かな眼差しを向けてくださる素敵な会社です。これからも、よろしくお願いいたします。

目黒区碑文谷2-7-11
TEL 03-3791-1141
<http://www.reefer.co.jp>



荻原 茂 第1営業部長
安達 貴則 総務課長代理

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ちいただくか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

2023年秋の碑文谷八幡宮例大祭

世話人 伊藤 靖行

コロナ禍を経て約4年ぶりに開催された碑文谷八幡宮の例大祭に、利用者さんとスタッフで参加しました。沙羅の家のある南一丁目町会のお神輿の町内巡行に加わり、神輿を担がせてもらったり、手拍子や掛け声をかけたり、休憩所では担ぎ手の皆さんと一緒に飲み物や食事をいただいたりと、活気溢れるお祭りで町会の皆さんも利用者も皆さんが晴れやかな笑顔でした。

神社の境内では縁日の屋台、金魚すくい、型抜き等、風情があり、子供だった頃の懐かしさと昭和の昔を感じる事ができました。



清水町会今井会長と一緒に記念撮影

お祭りを通して、普段は接する事の少ない地域の皆さんとあたたかい交流がなされ、お互いに顔見知りになれたことは、大変有意義な機会だったと思います。

来年も、引き続き地域の皆さんとたくさんの交流ができることを祈っています。



南一丁目町会 お神輿に参加



休憩所でおにぎり、ハンバーガー、ビールも少々。ごちそう様でした！

こぶしえん納涼祭に参加

支援課長 大久保昌英

新型コロナウイルス感染拡大から3年半が経ちました。その間、様々なイベントが中止、または縮小され、沙羅の家の利用者さんにおいても、ちょっとした『楽しみ』でさえ奪われてきました。今年5月から感染症法上の分類が「5類」に移行したことで、様々な制限が緩和されることになりました。あらゆる地域で活気が戻り、沙羅の家清水においても、ご近所の「こぶしえん」で、初めての納涼祭が8月20日に開催されました。



盛り上がった盆踊

日曜日ということもあり、沙羅の家清水の参加者はユニットCの利用者2名でしたが、開始早々に会場に向かいました。既に長蛇の列。園内に入るにも、飲食を購入するにも長時間並ばないといけない程の大盛況ぶりでした。それ程までに地域住民の方々が待ち望んでいたイベントだったのでしょう。利用者さんはやっと手にした「お好み焼き」や「焼きそば」を頬張り、滅多に味わえないアルコールをちょっとだけ流し込み、納涼祭を満喫していました。利用者さんにとって、『楽しみ』がまた一つ増えた一日でした。



並んで買った焼きそばは格別

編集後記

マスクを外す機会も増え、イベントも多く開催され、盛り上がっていました。もえぎの会でもしいの実祭の準備が始まりイベント販売への参加も増えてきています。基本的な対策を継続しながらもまた新しいことにも取り組んでいけたらと思います。(岡田)

発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話: 03-5724-7153

e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

